

第 48 回献血運動推進全国大会における厚生労働大臣挨拶

本日、皇太子殿下のご臨席を賜り、多数の皆様方のご参加を得て、第 48 回献血運動推進全国大会が、ここ滋賀の地で開催されるにあたり、厚生労働省を代表し、一言ご挨拶を申し上げます。

昭和 39 年の閣議決定に始まる献血運動は、病気やけがなどで輸血を必要とする患者の皆様方の尊い生命を救うため、国民みんなが互いに支え合い、助け合う仕組みとして定着して参りました。

とりわけ、昨年、東日本大震災の発生直後は、多くの国民の皆様方から、従来以上に献血へのご協力を頂きました。これは、国民の皆様方の温かいご理解と、関係者の皆様方の日頃からの熱心な推進活動のお取り組みの賜物であり、大変ありがたく、心強く思っております。

平成 23 年におきましては、延べ 525 万人の方々に献血にご協力を頂きました。しかし、少子高齢化の進展に伴い、献血できる方々の数は減少傾向が続いており、今後、若い世代をはじめとする多くの国民の皆様方の献血へのご協力がさらに必要となって参ります。

こうした状況の下、厚生労働省と致しましては、現在、献血推進の新たな中期目標「献血推進 2014」を策定し、若年層の献血者数の増加や安定的な集団献血の確保など、広く国民の皆様方に支えて頂くことをめざして、献血の推進に取り組んでいるところでございます。今後とも、安心して献血して頂ける環境の整備、血液製剤の安全性の向上と安定供給の確保に向けて、全力を尽くして参ります。

本日、献血運動に対する大きなご功績によって栄えある表彰を受けます皆様方には、今日までのご貢献に深く感謝申し上げますとともに、今後とも献血の推進のために、なお一層のご協力、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

本大会のご開催にあたり、ご尽力を頂きました滋賀県、日本赤十字社をはじめとする関係者の皆様方に、心から御礼申し上げますとともに、全国の献血運動の益々のご発展と皆様方のご健勝にてのご活躍を衷心よりお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

平成 24 年 7 月 24 日

厚生労働大臣 小宮山 洋子（厚生労働副大臣 辻泰弘 代読）